

トリン& ブッシャー / 金子親一 展
“Projection of Site/Sight”



“Tokyo 3x3km series”
Etched wood frame, 30 x 30 x 0.03 cm, 2008



“TORSO 754”
Archival pigment print, 426.4×320mm, 2008

展覧会タイトル トリン&ブッシャー / 金子親一 展
“Projection of Site/Sight”

会期 2011年3月12日(土) - 5月8日(日)

会場 東京画廊+BTAP | 北京
中国北京朝阳区酒仙桥路4号大山子798艺术区内
陶瓷三街 E02, 8503 信箱, 邮政编码 100015
TEL:+86-10-8457-3245 / FAX:+86-10-8457-3246

開廊時間 10:00 - 17:30 (月・祝休日)

オープニング・レセプション
2011年3月12日(土) | 15:00- BTAPにて

お問い合わせ 佐々木博之 (hiroyuki.sasaki@tokyo-gallery.com)

この度、東京画廊+BTAP（北京）ではトリン&ブッシャーと金子親一による展覧会『Projection of Site/Sight』を開催致します。

トリン&ブッシャーは、オーストラリア出身のシャウンテル・トリン（Chauntelle Trinh）とドイツ出身のエッカード・ブッシャー（Eckard Buscher）によるアーティストユニットです。デザイン、建築を大学で学んだ両氏は、2006年にユニットを結成し、以降、建築、デザイン、アートを融合させたプロジェクトを展開しています。本展ではプロジェクト『Metropolitan Cityscape』の第一弾として始動したシリーズ作品『Urban Topography Collection』を発表いたします。

『Urban Topography Collection』は世界の大都市の3キロ四方の俯瞰地図を、精巧なエッチング技術によって二次元のステンレススチールに落とし込む作品です。

アーティストは現地へ実際に赴き、時には2週間にわたって景観を記録して回ります。それらの詳細な情報を基に、人々の生活や空間構成を支配している都市のパターンを抽出し、観察者の視点からその構造を二次元に投影するのです。アーティストはこれらのプロセスを視覚的転換（visual translation）と名付け、自身の各地域における空間的体験を、高度且つ実験的な技術を用いて作品へと統合するのです。



“London 3x3km series”
Etched wood frame, 30 x 30 x 0.03 cm, 2008

金子親一は1961年東京生まれ。1983年にアメリカのパサディナ市立大学を卒業後、フリーランスカメラマンとしての活動を開始しました。2000年に株式会社キネエントスを設立。コマースフォトを中心に撮影を行う一方で、幾何学的なフォルムを被写体とする写真作品を制作し、国内外で展覧会活動を続けています。

本展で発表される『Unbalance』シリーズ、そして『TORSO』シリーズに収められたフォルムも、全て金子自身の手で作られています。三次元の空間に構築された被写体は、レンズを通して二次元の平面に投影されます。その投影図は幾何学的抽象画のような錯覚を引き起こし、写真の虚構性を強く喚起するのです。また、この虚構性は製作プロセスにもかかわるものです。金子は撮影を行う際の視線を始めに想定し、そこから出発して被写体を厳密に構築していきます。それは、撮るべき対象がまず決定されるという通例の撮影プロセスに対する強い問題提起を含んだ方法です。



“UB19941021”
Archival pigment print,
740×570mm, 1994



“TORSO 218”
Archival pigment print,
426.4×320mm, 2008

本展はトリン&ブッシャーの「Urabanscapes (Re)imagined」と金子の「Parallel World」の二部構成を予定しております。両アーティストにとって、中国での初の展覧会となります。彼らの作品は、三次元のサイト（場所／視覚）を二次元へと転換するという点で通じ合うでしょう。それぞれの作家に固有の問題と取り組む中で展開した概念と方法は、二次元と三次元の関係性を捉え直す契機を提供してくれるはずです。

皆さまのご来場を心よりお待ちしております。